

【地籍基本調査】

現状把握

地籍調査の進捗率は令和元年度末時点で約52%であり、更なる調査の促進が必要であるが、都市部では、土地が細分化し複雑であること、山村部では地形が急峻で領域が広大であること等が課題となり、地籍調査の効率化を阻害している状況。

こうした課題を解消するため、国が都市部ではMMS(モバイルマッピングシステム)活用手法、山村部ではリモートセンシングデータ活用手法を導入して効率的で先進的な調査手法を実践し、得られた結果を基礎情報として提供することにより市町村の地籍調査を後押しするとともに、こうした効率的な新手法の普及と導入推進を通じて、地籍調査のさらなる円滑化と迅速化を促進する取組を開始した状況。

課題設定

MMS活用手法やリモートセンシングデータ活用手法の導入でどのような効果が見込めるのかを整理するとともに、市町村ではこれらの新手法の導入が進んでおらず、専門職員が少なく新手法に不慣れであることにその要因があると考えられることから、効率的な手法導入基本調査の実績を積み重ねることにより、技術的課題を明確化するとともに、地籍調査への活用に応じた具体的な手法を如何にして市町村に分かりやすく提供するかを検討する。

インプット	アクティビティ	アウトプット	アウトカム	インパクト
<p>地籍基本調査予算 200百万円 (R03年度)</p>	<p>【効率的な手法導入推進基本調査】</p> <p>①MMS活用手法 7地区 データ・境界案作成</p> <p>リモセン活用手法 4地区 データ・境界案作成</p> <p>②市町村による後続の地籍調査 地区11地区</p> <p>③自治体への事例集等の普及促進</p>	<p>①「効率的な手法導入推進基本調査」の技術的課題の検証・整理</p> <p>②後続の地籍調査を踏まえ様々なケースの実績を反映した事例集、マニュアル、動画の作成</p> <p>③市町村が独自に効率的で先進的な手法を導入した地籍調査の実施</p>	<p>【都市部・山村部】</p> <p>○遅れていた地域での地籍調査面積の拡大</p> <p>都市部(DID) 36% 山村部 52% (令和11年度)</p>	<p>○防災対策の推進 (復旧・復興の迅速化等)</p> <p>○社会資本整備の効率化</p> <p>○民間都市開発の推進・土地取引の円滑化 等</p>